

同窓会報

発行：東京都立大学
附属高等学校同窓会
〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2
発行人：六戸迪武
編集：同窓会報編集委員会

外に開かれた「窓」を

同窓会理事長
六戸迪武（13期）



ことを示す頼もしい事実でした。

都立大学と共存していた頃と比べれば、キャンパスも校舎も大きく様変わりしていますが、記念祭のプログラムを見れば、各クラスの上演する演劇の紹介がズラリ。旧制府立高校以来の記念祭の伝統が生きていることを実感します。

こんにちは、13期の六戸です。長年理事長を務められた1期の内野さんの後を受け、同窓会の運営に関わることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今年の夏と五〇年前と

昨年九月八日、九日の両日、都立桜修館中等教育学校の「第64回記念祭」が行われました。ご承知のように桜修館は都立大附高を前身として、二〇〇六年（平成一八年）に開校した新しい6年制の中高一貫校です。その学校の学園祭が「第64回記念祭」を名乗っている。学校の歴史が名実ともに継続している

1960年第12回記念祭で「春雷」を上演後の1年C組



そのうえは、一九六〇年の第12回記念祭で、私たちが1年C組は「春雷」という劇を上演したのです。私たちが13期は、一九六〇年（昭和三五五年）に入学し

六三年に卒業しました。来春に、卒業後五〇年になります。五〇年＝半世紀といえ、相当に長い時間です。しかし、今から考えると時代の一つの節目の年だったあの頃のことは、鮮明に蘇ってきます。日米安全保障条約改定に対する国民的反対運動が盛り上がった「60年安保」、都立大附高からも沢山の生徒がデモに参加しました。総資本対総労働の対決と言われた「三池争議」が終結し、池田内閣が「国民所得増進計画」を唱えて、高度成長が始まったのが一九六〇年でした。私が母校「都立大附属高校」に在籍したのは、この一九六〇年春から、わずかに3年間です。にもかかわらず、五〇年余りの年月を越えて、子供から大人への変わり目の思い出が、社会と自分との出会いの記憶が、八雲が

主な内容

(数字は掲載ページ)

- 2 桜修館小林校長挨拶
- 2 「第64回記念祭」レポート
- 3 「八雲が丘文庫」について
- 4 「学フォーラム」で講義して
- 5 事務局からお祝いと連絡
- 7 改訂された同窓会会則
- 9 盛んな同期会レポート
- 11 同窓会名簿「補遺」

丘のキャンパスを舞台に蘇ってくる。そして、その後五〇年のスタート地点がそこにあったのだと実感しています。同窓会の一員であることを自覚するのは、その実感に根ざしています。

同窓会とは何なのか

さて、そこで同窓会です。そもそも「同窓会」なるものを成立させている動機は何なのか。

在校時代の思い出、それとも「良き思い出」が、同窓会に集う最大のモチベーションであることは言うまでもありません。が、それだけでは同窓会を継続してゆくことはできません。

クラス会、同期会のレベルなら、経験の共有、仲間意識、人間関係の記憶などで成立します。同窓生の集まりの中で、クラス会が最も濃密な存在であり続けるのはそのためでしょう。部活のOB・OG会、旧制高校の寮の同窓会などにも同様の「共同体」的な強いつながりが感じられます。

これが卒業生全員の同窓会になると、かなり違ってくるように思います。その学校の卒業生であることの誇りが前面に出たり、互助会的性格が強かったり、内容はさまざまですが、団体あるいは組織としての機能を強く求められます。

同じ学校を卒業した、という唯一の共通点でまとまろうとする、意識的な努力が必要となってくるように思うのです。

同窓会活動の三つの柱

東京都立大学附属高等学校の卒業生は、昨年三月に最後の第61期生が卒業して、一万四三〇六名となりました。これから増えることはありません。

この一万四千余名の中には、同窓会に入ることによしとしない卒業生もいます。名簿に記載するなどの要望もあります。

けれども私は、卒業生は同窓生であり、ぜひとも同窓会の活動に加わってほしいと期待し続けます。同窓会活動の三つの柱とは、次の三つです。

一、会員相互の親睦を深めるため、より多くの機会をつくる。この目的のため会員名簿の管理、活用を行う。二、旧制府立高校以来の歴史と伝統を受け継ぎ、

その精神を桜修館中等教育学校の生徒、卒業生に引き継いでゆく。

三、桜修館中等教育学校の教育環境の向上に寄与するなど、会として社会的に意義ある活動を展開する。

「窓」は外に向けて

一、に関しては特に説明は要らないと思います。今のところ大したことは出来ていませんが、今後具体的なイベントなども考えていきます。

二、に関しては少し解説があります。一九五〇年（昭和二五年）に閉校となった旧制府立高等学校の校旗、校歌、校章は、一九四八年（昭和二三年）に発足した都立新制高等学校（二年後に都立大学附属高等学校）に引き継がれ、二〇一二年（平成二三年）に都立大附高が閉校になると、さらに桜修館に引き継がれています。

同窓会の「窓」は、雪明り、蛍の光を取り込む「学窓」学校を意味していますが、ここでは、外に向けて、社会に向けて開かれた「窓」という意味も付け加えたいと思います。

都立大附属高校同窓会は、それ自身が小さいけれど社会的に意義ある団体になりたいと願っています。

新役員紹介

会計監事常務理事

箕原利憲（11期）

同窓会が永く継続出来るよう会計に目を配ります。



会計担当常務理事

北原久利（18期）

簡便で間違いない同窓会の会計を目指します。



昨今の桜修館をめぐる動きについて

都立桜修館中等教育学校長 小林洋司



最初に、生徒をめぐる動きです。部活動の成果としては、弓道部がインターハイ出場、水泳部（中学生の部）が全国大会に出場しています。また吹奏楽が夏のコンクールで前期課程、後期課程とも銀賞を受賞し、その他、目黒区内の大会で、硬式テニス、バドミントン、サッカー他で成果が挙げられました。また、中学生の主張コンクールや高校生という言葉の祭典で発表会に出場しました。

次に、今、尖閣諸島や竹島をめぐる動きが起っています。ロシア



二期生も難関国立大学を志望している者が相当数あります。現在、生徒各自の進路実現を

のメドページエフ首相の北方領土渡航直後の7月25日から同30日まで、本校の5年生の男子生徒1名が北方四島交流事業に参加しました。北海道の根室市から専用船で国後島に渡り、同島の現在の様子を見学するとともに、現地でもロシア人と交流し、相互理解を進めてきました。日本人墓地の参拝も行いました。私も引率のため同行しました。北方四島交流事業は、平成4年に当時のゴルバチョフ政権時代のソ連から提案があり、始まったものです。人的交流を通して相互理解を進めて、返還につなげようとするのが我が国の考え方です。

さて、二期生の進路実現についてです。一期生の進路実現の結果を見て、図るべく、教職員を挙げて努力しているところであります。特に記念祭以後は大きな学校行事もなくなり、6年生（高校3年生に相当）を中心に、放課後も自習室、進路室、普通教室、図書館等で午後7時まで勉強にいそしんでいます。また、隣接するパリスモンホール内の図書館を利用して、夜9時まで自習している者もいます。二期生の頑張りに期待したいと存じます。

度初めて実施することといたしました。9月の記念祭では、2日間で約6500人の方々に来校していただき、1700人以上増えました。広報活動の拡充の効果が現われたものと考えられます。個別相談ブースも2日間とも盛況で、私もお手伝したため、同窓会の合唱に参加できず、皆様に迷惑をおかけしてしまい、大変申し訳なく思っております。

一方、東京都教育委員会は、そのホームページの中で、中高一貫教育校については、生徒・保護者のニーズに応えるため、今後は進学指導を支援していく、としています。本校は、東京都内にある11校の中高一貫教育校の一つとして、堅実な校風を維持して生徒を育成し、確かな学力を身に付けて、進学実績を挙げられる学校としての評価が定まるように、今後とも着実に地歩を固めるよう全力を尽くす所存です。同窓会の諸氏におかれましては、どうか本校の教育活動にご理解を賜りまして、今後ともご協力をいただきますようお願い申し上げます。

次いで、広報活動の活性化が挙げられます。今年度の学校経営計画の中でも重点事項の一つに位置づけました。これに伴い、副校長を中心に生徒募集活動を拡大・充実させています。広報活動の重点地域を従来の目黒区、世田谷区、大田区、品川区に加えて、港区、渋谷区、中央区、新宿区や、遠くは町田市、杉並区、練馬区など周辺地域にも拡大しました。また、塾・予備校などから出席依頼があった場合には、必ず参加するように対応しています。さらに、塾を対象とした学校説明会を今年

第64回記念祭レポート

文・写真：根岸之夫（21期）

残暑というより夏の盛りの感があつた九月八、九日の両日、「第64回記念祭」が行われました。

初日は開場直前、突然の豪雨に見舞われ、立て看板や垂れ幕を緊急避難させざるを得なかったため、立て看板のない中庭という、若干寂しいオーブンとなりましたが、小学生を交えた家族連れや小学生だけのグループも多く大盛況。押すな押すなのアメ横状態を、あちこちで見受けました。

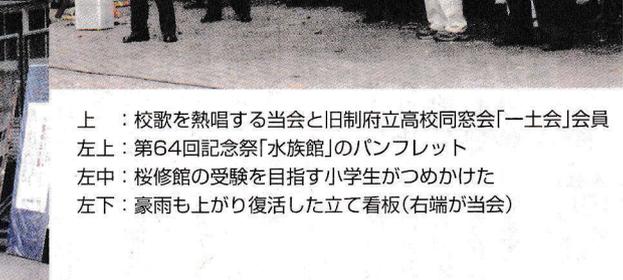
夕方受付におられた先生に伺ったところ、昨年の二倍を超える小学生の記帳数とのこと。これも三月末の中高一貫校の進路状況発表以来、桜修館一期生の華々しいデビューが、多くの週刊誌などにとりあげられた影響ではないでしょうか。

当会は昨年同様、旧制府立高校同窓会と共催で、B棟4階6C教室に



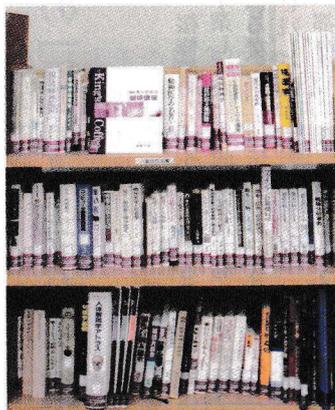
「八雲が丘の集い（同窓会の部屋）」を出展、また初日の午後1時から、閉校記念碑前で校歌・学生歌の斉唱イベントを行いました。

来年の第65回記念祭の日程等は、当会のHPでお知らせしますので、皆様もふるってご参加ください。



上：校歌を熱唱する当会と旧制府立高校同窓会「一土会」会員
左中：第64回記念祭「水族館」のパンフレット
左下：豪雨も上がり復活した立て看板(右端が当会)

「八雲が丘文庫」に図書寄贈のお願い



蔵書はPTAから寄贈された書架に納められている

母校の閉校にあたり、笹のぶえ前副校長先生の提唱により、当会と都立桜修館中等教育学校の保護者と教職員の会が、「真理の探求」を実現し続けた教育活動の足跡を後世に伝えることを目的とした「八雲が丘文庫」が開設されました。

寄贈された図書は、図書館に設けられた書架に展示され、桜修館の生徒の利用に供せられていますが、更に文庫の充実を図るため、著書・文献などのご寄贈をお願い申し上げます。

寄贈先：都立桜修館中等教育学校内「八雲が丘文庫」担当

〒152-0023

東京都目黒区八雲1-1-2

Tel. 03-3723-9966

Fax. 03-3724-7041

*誠に恐縮ですが送料のご負担をお願いいたします。

また、同窓生、教職員の著書に関する図書目録の送付も受け付けています。その場合は、①書名、②著者名、③発行所名をご記入の上、上記にお送りください。

予算の許す範囲で、図書目録より選定した図書を購入し、「八雲が丘文庫」の蔵書といたします。

「八雲が丘文庫」蔵書目録 (前号に掲載の1~110に続き111~145。平成24年11月7日現在)

番号	種別	書名	著者	発行所
111	書籍	回折光学素子入門	(社)応用物理学会日本光学会光設計研究グループ	オプトロクス社
112	書籍	堀内茂男戯曲集方丈記	堀内茂男	南斗書房
113	書籍	JET STREAM 旅への誘い詩集~遠い地平線が消えて~	堀内茂男	TOKYO FM出版
114	書籍	古代中国と皇帝祭祀	金子修一	汲古選書
115	書籍	風景への誘い — ヨーロッパ描き歩き	喜多迅鷹	日易出版社
116	書籍	スケッチ紀行・漱石先生と歩く	喜多迅鷹	日易出版社
117	書籍	東京文学スケッチ散歩	喜多迅鷹	日易出版社
118	書籍	ふるさと長崎133系	喜多迅鷹	長崎新聞社
119	書籍	クレヨン画革命	喜多迅鷹	日易出版社
120	書籍	自由への最終列車	J=F・シェニョー、喜多迅鷹訳	文藝春秋社
121	書籍	電撃戦	レン・デイトン、喜多迅鷹訳	早川書房
122	書籍	癒される時を求めて	エリック・ローマクス、喜多迅鷹訳	角川書店
123	書籍	北極グマの季節	トマス・J・コッホ 喜多元子翻訳	文化放送
124	書籍	ヘラクレア物語	バーナード・エヴスリン 喜多元子翻訳	社会思想社
125	書籍	恋の天才たち	マーガレット・ニコラス 喜多元子翻訳	社会思想社
126	書籍	凍結都市	D・アースコット 喜多元子翻訳	社会思想社
127	書籍	ポーズする死体	A. J. オード 喜多元子翻訳	社会思想社
128	書籍	ステラ	オリーブ・H・フローティ 喜多元子翻訳	社会思想社
129	書籍	嫌われる日本人	フリードマン・パートウ 喜多元子翻訳	日本放送協会
130	書籍	巨大穀物都市	ダン・モーガン 喜多迅鷹・喜多元子翻訳	日本放送出版協会
131	書籍	レニ・リーフェンシュタール	レニ・リーフェンシュタール 喜多迅鷹・喜多元子翻訳	リプロボート
132	書籍	肉体の分化史	スティーブン・カーン 喜多迅鷹・喜多元子翻訳	法政大学出版局
133	書籍	トニオ・クレエゲル	トオマス・マン著 実吉捷郎訳	岩波文庫
134	書籍	現代の病理学 総論	喜納 勇 他3名	金原出版株式会社
135	書籍	現代の病理学 各論	喜納 勇 他3名	金原出版株式会社
136	書籍	開発途上国鉄道と我国政府開発援助	黒田定明	株式会社サンワ
137	書籍	その光を燃やし続けて 斎正子一遺稿と追憶	斎正子先生遺稿集刊行委員会	製作：青木書店
138	書籍	アロハ年鑑 ハワイのすべて		ハワイ報知社
139	書籍	英雄の舞台 三国志	写真：川田秀文	旺文社
140	書籍	ハワイ日系バイオニアズ -100の物語-		
141	書籍	モーツァルトと日本人	井上太郎	平凡社
142	書籍	旧制高校生の東京敗戦日記	井上太郎	平凡社
143	書籍	Shakespeare and the Sidney Circle	林 明江	雄松堂
144	会報	風のなかへ 歴史倶楽部会報12号	大阪・本町「歴史倶楽部」	
145	会報	風のなかへ 歴史倶楽部会報13号	大阪・本町「歴史倶楽部」	

桜修館の「學フォーラム」で講義して

瀧野日出雄 (30期)

昨年12月14日、桜修館の教壇に立った。卒業してから35年近くたっているが、学校は当時の面影を残していた。桜修館では、都高の校舎の多くを建て替えずにそのまま使い回しているのがある。このなつかしの校舎で、たった二日とはいえ授業ができたのは、感慨深いものであった。本稿では、教壇に立つことになったいきさつや、授業当日のようすをしるす。

回から中断することなく毎年開催され、都高・桜修館の伝統行事ともなっている。「學フォーラム」という名称は、「學」という字の成りたち由来して名付けられたと聞く。この名付けにまつわる話や、本フォーラム開催までの経緯は、都高第21代校長の生田茂先生や保護者の岩森邦子氏が、都高閉校記念誌でくわしく述べておられる。

昨年の5月頃のことであるが、桜修館の臼田副校長から都高同窓会にたいして「學フォーラム」において都高卒業生2名に講師として講義してほしいと打診があった。今回の「學フォーラム」のテーマは、「今、君たちに伝えたいこと」にしたことである。できれば30期よりも若い世代、つまり50歳以下くらい、いま最も働きさかりの世代にお願いしたいという。そこで同窓会で人選した結果、30期の坂本和弘氏とわたしの2名が出講することになった。

多彩な方々が講師として招かれた。坂本氏は水族館に勤めておられ、「人との出会いや様々な経験が将来へ繋がる!」と題して講義をされた。わたしは、精密機器メーカーに勤務する技術者の立場で「技術の追求 夢の実現」と題して講義をした。固い話題ばかりでは生徒も息がつまるだろうと思ひ、わたしは卒業アルバムの写真を見せながら、都高時代の思い出も話した。

桜修館では、毎年「學(まなび)フォーラム」という行事をおこなっている。この行事では、毎回、10名程度の社会人を講師として招く。そして、毎回設定されたテーマについて、講師に授業形式で語ってもらう。これにより、生徒の職業観や勤労観を育もうとしている。

「學フォーラム」は都高時代の平成14年度からはじまり、それが桜修館へと引きつがれたものである。先生・保護者各位のご尽力で、初

都高から桜修館へと校名が変わり、その魂ともいえる校訓も半分(真理の探究)しか受け継がれていない。このことからすれば、両校は実質的には別の学校でしよ、というのが桜修館の生徒の考えなのかもしれない。とはいえ、「學フォーラム」のほかに、校舎やクラスマッチ、記念祭など、都高から桜修館へと引き継がれたものも多い。桜修館の生徒は、これらの都高時代の昔話に興味をもったようで、楽しそうに聞いていた。わたしも、その日は、愉快な気分であった。これからも、ご先祖様の気分で桜修館を見守っていきたいと思う。



講義中の坂本和弘氏

われわれ卒業生のほかには、大使館秘書や、JICA職員、家具職人、有機農業家、臨床心理士、編集者、防災関係のコンサルタントなど、

八雲が丘学友会会則

第1条(名称)

本会は八雲が丘学友会と称し、その本部を東京都立桜修館中等教育学校内におく。

第2条(会員)

本会は、府立高等学校同窓会、東京都立大学附属高等学校同窓会、東京都立桜修館中等教育学校同窓会をもって構成する。

第3条(目的)

本会は次の各項を目的とする。

- ① 会は互助協力の精神に則り、各同窓会相互の交流を図る。
- ② 東京都立桜修館中等教育学校の発展に寄与する。
- ③ 府立高等学校及び東京都立大学附属高等学校の知的財産を保護、継承する。

第4条(事業)

本会はその目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 理事会の開催。
- ② 情報交換や交流の場を設ける。
- ③ その他目的達成のため必要な事業

第5条(役員)

本会に次の役員をおく。

- ① 理事長
- ② 理事……各同窓会から2名、その他理事長が必要と認める者若干名
- ③ 顧問……桜修館中等教育学校校長、桜修館中等教育学校元校長、その他若干名

第6条(役員職務)

- 1、理事長は本会を代表し、会務を総理する。理事長は、理事のうちから常務理事を委嘱することができる。
- 2、理事は、理事会を構成する。
- 3、常務理事は、会務を分掌し、理事長を補佐して、その執行にあたる。

第7条(役員選出と委嘱)

- 1、理事長は、理事会において理事が互選する。
- 2、理事は、各同窓会において選任する。

第8条(役員任期)

役員任期は3年とする。但し、再任を妨げない。

第9条(理事会)

- 1、本会に理事会をおく。理事会は、本会の業務を審議・決定する。
- 2、理事会は、理事長の招集により、年2回以上開催する。但し、理事の半数以上から要求があった場合は、理事長は理事会を招集しなければならない。
- 3、理事会は、会務執行のため、必要な規則を定め、また必要な委員会を設置することができる。

第10条(会計)

1、本会の収入は次の通りとする。

- ① 寄付金品
- ② 事業に伴う収入
- ③ 資産から生じる果実
- ④ その他の収入

2、本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり翌9月30日に終わる。

第11条(事務局)

本会に事務局を設けて事務を処理する。

附 則

第1条

東京都立桜修館中等教育学校同窓会が設立されるまでの期間については、保護者が職務を代行する。

第2条

本会則は、平成23年7月27日より施行する。

以上

事務局からのお願いとご連絡。

会費の納入をお願いします。

昨年の総会において、母校の閉校にともない、来年からは入会者がなくなり、従って入会金がなく、このままでは会の運営ができなくなるため、今後は“会費”を納入して頂くことが決まりました。

① **会費**：3年間 5,000円、**終身会費**：30,000円の何れかを選択して納入いただく。

② ただし入会(卒業)後5年間は徴収しない。

この決定に従い、第1期生から56期生までの会員には、2011年末に送付した会報に「振替用紙」を同封し、納入をお願いしましたが、極めて低調な納入状況で、このままでは同窓会報の発行さえ出来なくなります。

会費未納の方は、是非納入をお願いします。

この会報には、**会費未納の方のみ**振込用紙を同封しました。もしも行き違いでお支払いいただいた方に用紙が同封されていた場合は、何卒ご容赦ください。

今回から支払い方法を改善し、郵便局からの振り込みに加え、**コンビニからの振り込み**も可能にしましたので、お近くのコンビニからもお振り込みください。

また**銀行振り込み**も可能にしました。お近くの銀行のATM、またはご自分のPCからも振り込みができます。どの方法でも結構ですので、是非とも会費の納入をお願いします。

① **郵便局とコンビニからの振り込み**：同封の振替用紙をご利用ください。

コンビニの収納票は3年間会費のみです。そのままコンビニにお持ちください。

郵便振替は3年会費、終身会費兼用です。住所、氏名、金額を記入し郵便局にお持ちください。

② **銀行振り込み**：下記口座にお振り込みください。

銀行窓口・ATMからお振り込みいただく場合は、振込人を通帳記名人ではなく、**13Aヤマダタロウ**のように、卒業期・クラスを氏名の前に、忘れずにご記入ください。

ネットバンクをご利用の場合は、通信欄があれば通信欄に、**13A山田太郎**のように卒業期、クラスを氏名と共に記入してから振り込みボタンをお押しください。通信欄がない場合は、ATMと同様に振込人欄を修正してください。

*手数料はご負担ください。また類似名称での詐欺が発生しています。口座番号と同時に名義人名称を確認してください。

振込先：ジャパンネット銀行、**支店名**：すずめ支店、**支店番号**：002、**預金種目**：普通預金、

口座番号：6271398 **口座名義人**：トウキョウトリツダイガクフゾクコウトウガッコウドウソウカイ

(漢字表示)東京都立大学附属高等学校同窓会

理事・評議員が不在の、 24, 38, 40, 42, 44, 47, 48, 50, 54, 55期にお願い。

同窓会は原則として、各クラス選出の「評議員」と、卒業期の代表としての「理事」によって組織・運営されていますが、いまだに選出されていない期があり、同窓会の運営に支障をきたしています。

そこで、**24, 38, 40, 42, 44, 47, 48, 50, 54, 55期**の方をお願いします。

同期会やクラス会の際に「理事」「評議員」を選出していただき、同窓会まで、是非ともご連絡ください。

同期会やクラス会も開催されない場合は、クラス会や仲間の会の幹事の方が自薦他薦してください。

連絡方法は、下記同窓会に郵送するか、HPのメールフォームを利用するか、どんな方法でも結構です。

住所変更の連絡方法

住所が変わった時は、同窓会報などの連絡が出来なくなりますので、速やかにご連絡ください。

【連絡方法】

① **HPから**：HPのContact (ご連絡)欄からメールフォームを利用

② **郵送**：〒152-0023 目黒区八雲1-1-2 東京都立桜修館中等教育学校 内
東京都立大学附属高等学校同窓会

③ **理事・評議員に依頼する**：親しい信頼できる同期の理事・評議員に依頼し、名簿を変更してもらう。

同窓会会則 40年ぶりに改訂

去る4月28日に開催された「臨時総会(写真)」で、人事の若返りと共に、40年前の昭和48年10月7日に制定された「会則」(名簿の3ページに所載)を、母校の閉校にともない、事務所の所在地を「東京都立桜修館中等教育学校校内に置く」への変更と、実情に合わなくなった事項を修正し、更に会の運営上必要な「細則」を加えた改訂案が承認され、10月1日より施行されました。



細 則

第1条

(事務所の所在地、正式名称)

〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2 東京都立桜修館中等教育学校内
東京都立大学附属高等学校同窓会とする。

第2条

(八雲が丘学友会)

府立高等学校同窓会、東京都立桜修館中等教育学校同窓会とともに、「八雲が丘学友会」を構成する。

八雲が丘学友会の運営は「八雲が丘学友会会則」による。八雲が丘学友会として必要経費が生じた場合は応分の支出を行う。また寄付等の実行は、常務理事会の承認のもとに行う。

第3条

(会費)

特別会員は会費を免除し、通常会員のみ年会費とする。金額は3年間5,000円、終身会費30,000円とする。

第4条

(経費の支出)

通常経費は常務理事会の承認のもとに支出する。高額、あるいは予算化されていない支出については理事会の承認を必要とする。

第5条

(常務理事会)

常務理事会は執行機関として会務を執行する。

第6条

(常務理事会の構成)

理事長、常務理事で構成し、必要の都度開催する。構成員の過半数で決議、決定する。

第7条

(予算・決算等会計事項)

- 1、会計帳簿は担当常務理事が掌理する。ただし事務局員に実務を委託することができる。
- 2、財務諸表等は公益企業会計に準ずるが、簡略化した現金主義会計とする。財務諸表は、貸借対照表および正味財産増減計算書のみを作成し、キャッシュフロー計算書、注記、附属明細書、財産目録は省略する。
- 3、決算報告は監査報告を添付して、常務理事会に報告し、理事・評議員会議の承認を得る。
- 4、運営予算については、年1回事業年度が始まる前に常務理事が作成し、理事会の承認を得る。

第8条

(事務局員)

事務局員は理事長が委嘱し、有給とすることができる。給与その他の条件は理事会の承認を得る。

第9条

(支部、委員会の設置)

- 1、支部は、クラブ・サークル、あるいは地域などを母体として結成する。代表者は支部長として、理事長より理事に指名される。
- 2、理事長は「会報委員会」等の委員会を設置できる。各委員会の委員は理事の中から選任する。理事以外から委員を選任する必要がある場合は、同時に理事を委嘱する。

第10条

(名簿の管理)

冊子としての名簿の発行は当面行わないが、会員の名簿は、会報等の送付のため継続して更新していく。

第11条

(会報)

会報は、原則として年1回発行する。内容は編集委員会で作成し常務理事会で決定する。送付対象は別途理事会で決定する

第12条

(ホームページ)

インターネット上のホームページは随時更新し、閲覧制限は設けない。ただし掲示板などは、投稿制限等の規制を行う。

付 則

- 1、本細則の変更、改廃は理事会により行う。
- 2、本細則の規定にない事項は、常務理事会または理事長の決裁による。
- 3、本細則は平成24年10月1日より施行する。

以上

東京都立大学附属高等学校同窓会 会則

第 1 章 総 則

- 第1条 本会は東京都立大学附属高等学校同窓会と称する。
- 第2条 本会は、旧制府立高等学校から受け継いだ「自由、自治、真理の探究」の精神を尊重し、会員相互の親睦を図るとともに、都立桜修館中等教育学校の充実など、教育環境の向上に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は前の目的を達するため、次の事業を行う。①会員名簿の管理 ②会報機関紙等の発行 ③その他目的達成のため必要な事業
- 第4条 本会は事務所を東京都立桜修館中等教育学校内に置く。

第 2 章 組 織

- 第5条 本会の会員は次の2種とする。①通常会員：東京都立大学附属高等学校を卒業した者、又は在学した者 ②特別会員：本校の教官並びに理事会の承認した縁故者など。
- 第6条 本会に次の役員を置く。①理事長：1名 ②顧問：2名以内 ③監事：1名 ④常務理事：若干名 ⑤理事：原則各期1名 ⑥評議員：各級1名以上。評議員は各級の推薦による。但し、推薦がない場合には理事長の委嘱による。
- 第7条 理事長、監事、および常務理事は理事会で選任する。
- 第8条 理事は評議員での選任とするが、理事長による会員、特別会員、支部長からの委嘱を認める。また、理事は評議員を兼務する。
- 第9条 評議員は各級の推薦による。但し、推薦がない場合には理事長の委嘱による。
- 第10条 役員の任期は、3年間とし再任を妨げない。

第 3 章 会 務

- 第11条 理事長は本会を代表し、会務を総理する。顧問は理事長を補佐する。
- 第12条 常務理事会は常務理事で組織し、日常の会務を執行掌理する。理事会は理事で組織し、会務を審議決定する。理事会は年1回以上開催する。
- 第13条 監事は本会の会計を監査する。
- 第14条 評議員は各級と本会との会務の連絡に当る。
- 第15条 評議員会は評議員で組織し、次の事項を付議する。①理事の選任及び承認 ②支部・委員会の設置の承認 ③重要な運用財産の処分 ④事業計画の報告 ⑤事業報告 ⑥決算報告の承認 ⑦その他重要事項。評議員会は年1回以上開催する。
- 第16条 通常総会は三年に一回理事長が招集する。但し、必要があるときは、何時でも臨時総会を招集することができる。総会においては理事長が議長となる。
- 第17条 次の事項は、総会に付議しなければならない。①会則の変更 ②前総会日から当日までの事業報告 ③中長期的な事業計画 ④その他重要な事項
- 第18条 総会および各役員会の議事は理事長が招集し、議長となる。出席会員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。但し会則の変更を採決するには出席3分の2以上の多数を要する。
- 第19条 本会の庶務を処理するため事務局を置くことができる。事務局員は理事長が委嘱する。

第 4 章 会 計

- 第20条 本会は会費、寄付金、その他の収入を以って収入とし、通常の経費はその範囲内でこれに充てる。また、特定寄付を受け、別会計を設けることができる。
- 第21条 本会の会計は、一般に公正妥当と認められる会計基準にて行う。会計帳簿および財務諸表等の作成は担当の常務理事がこれにあたり、監事の監査を受けなければならない。
- 第22条 本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり翌9月30日に終る。

第 5 章 支 部 ・ 委 員 会

- 第23条 本会はその目的を達するため、必要があるときは支部・委員会を設けることができる。
- 第24条 支部を設置しようとする者は、その代表者から本会に届けなければならない。支部・委員会は理事長が理事会承認のもとに設置する。
- 第25条 支部は支部会において特別の定めをすることができる。
- 付 則 1、規程にない項目については、理事会により細則を定めることができる。
2、本会則は、平成24年10月1日より施行する。

以上

盛んな同期会・クラス会・同好会レポート

第9期同期会

日時：平成24年3月31日(土)
午後5時30分より

会場：神田一ツ橋「如水会館」

参加者：約50名

風邪を押して出席くださった早乙女先生以下、「吹きすさぶ嵐について」の記念祭歌のとおり、折からの風雨をもとませず三年ぶりに集まった同期同士、いつもながら会った途端に五十数年の時空を飛び越え、純情の高校生に戻って、久闊を叙すとともに肩を叩き合って相互親睦、相互激励の実を挙げました。●以下左ページ下段へ続く



第12期卒業50周年記念同期会

日時：平成24年5月8日(火)
午後3時より

会場：神田一ツ橋「如水会館」

参加者：50名

五年に一度を定例にしている12期ですが、卒業後五十年を迎え、連絡可能な二二八名のうち五十名が参加して旧交を温めました。卒業後初めてという仲間も数人、ドイツや四国からの参加者を含め、同期会と二次会・クラス会を楽しみました。いつもの校歌・寮歌・記念祭歌の合唱も、今回は仁宮氏のアコーデオンの伴奏で盛り上がりました。(渡辺知之・記)



第13期同期会

日時：平成23年11月27日(日)
午後5時より

会場：自由が丘「南国飯店」

参加者：42名

第13期の同期会は、2000年の春7年ぶりに開催。以来毎年切れ目なく12年間継続して開かれています。毎年開催で安心しているのか、当初70人ほどであった参加者が、最近はやや減少気味ですが、この日自由が丘に結集した40余人は、なんとも元気に、飲みかつ食べて意気盛んに二次会のカラオケに繰り出していきました。



卒業後50周年の節目に当たる来年は、より多数集まるものと期待しています。(久留朗・記)

第16期同期会

日時：平成24年6月19日(金)
午後6時より

会場：アルカディア市ヶ谷私学会館

参加者：32名

団塊の世代の16期は、今年満65歳を迎えます。そろそろ第一線から退く頃になり、高校時代が懐かしくなってきました。個人的に仲の良い仲間との輪もゴルフコンペなどを開催し広がり始めました。

F組の加藤君のウエスタン発表会で何人かと逢ったものから、しばらくクラス会をしていなかったE組のクラス会を合同で、6月29日(金)午後6時から市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷私学会館の中華「翠」で開催し、E組19名、F組10名、D組2名、C組1名、合計32名が参加しました。●以下左ページ下段へ続く



★「盛んな同期会・クラス会・同好会」原稿募集

応募方法

- ① HPから: HPのCnntact (ご連絡) 欄からメールフォームを利用。
- ② 郵送: 〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2 都立桜修館中等教育学校 内 東京都立大学附属高等学校同窓会

投稿の内容

文字数などは、この欄を参照してください。 *同期会・クラス会などの予定は、HPにBBS (掲示板) を用意していますのでご利用ください。

第26期E組クラス会

日時: 平成24年10月27日(土)

午後00時より

会場: ホテル日航東京

参加者: 22名

2012年10月27日(土)に「ホテル日航東京」に於いて、26期E組第2回クラス会が開催されました。

担任の浅羽先生は事情によりご参加頂けませんでしたが、久野先生、加藤先生がご参加下さり、お元氣な姿を拝見することが出来ました。

26期E組は男子21名、女子13名でしたが、当日は男子9名、女子13名が参加し、
●以下下段へ続く



第30回「八雲展」会

日時: 平成24年5月18日(土) 23日

会場: 大崎ニューシティ2号館

2F「O(オー)美術館」

出展者: 40名

「八雲展」が、平成24年5月18日から1週間「O美術館」で開催され、今回は30周年記念展ということで、大先輩の遺作も展示いたしました。

この八雲展の会員の半分は、松岡正雄先生の薫陶を受け、アートの世界に踏み込んだ人達です。

会員の大半はリタイア高齢者ですが、現役で活躍している会員の新鮮な画力に刺激を受け、益々意氣盛んな作品を発表しています。

40人90点余の作品が、壁一杯に展示され、沢山の方々が来館されました。



●今年は5月17日(金)～22日(水)同美術館で開催
http://www.yakumoten.com (八雲展事務局: 望月彩子・記)

機研OB・OG懇親会

日時: 平成24年10月13日(土)

12時30分より

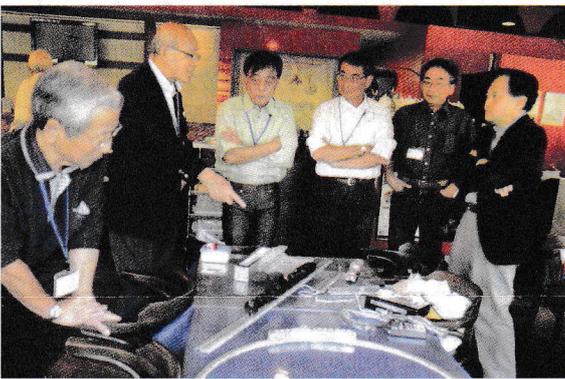
会場: 市谷「ブオーノ」

参加者: 18名

旧制府立高校の「鉄道研究会」を引継ぎ、新制になってから研究分野を広げた「機械技術研究会(略称: 機研)」は、毎年「鉄道記念日」直近の土曜日に開催している「OB・OGの懇親会」を、今年も表記のとおり開催しました。

遠く奈良・富山、名古屋、長野からの参加者を含めた1期から22期の18名が、近況や研究成果を語り、工夫を凝らした鉄道模型(HO、Nゲージ)の運転や資料の展示・配布、DVDの上映など、年を経る毎に充実した内容の懇親会になりました。

(野口貞義・記)



●右ページ1段目より続く

A君の名司会のもと、ゴルフや歩く会などの現在活動中の「クラブ活動」報告、野球部柔道部などの往時の部活仲間が続いている懇親会の報告、更には「音智」による母校愛唱歌の混声四部合唱(写真)が披露されたほか、各出席者から順次近況が報告され、充実した時を過ごしました。

H君のギター伴奏による校歌斉唱を「中締め」代わりに、同じ会場での二次会には、殆ど全員が引き続き参加、更に会場を変えての三次会にも7割ぐらいが別れ難くて参加するなど、「夜を籠めて友と語ろう」寮歌を彷彿とさせる一夕でした。
(朱牟田静雄・記)

●右ページ4段目より続く

だいぶ変わって分からなくなっていた顔も、卒業アルバムと見合わせ、旧交を温めました。その後末田君を中心に16期のfacebookを立ち上げました。ご参加下さい。
(宮坂充宜・記)

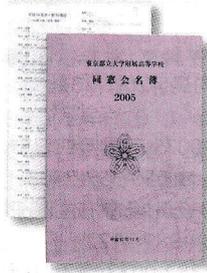
●1段目より続く

レインボーブリッジの夜景を楽しみながら、美味しい食事とお酒を頂きながら、楽しいおしゃべりのひと時を過ごしました。

2次会は、クラスメートが銀座で経営しているBarに繰り出し、当時流行ったプリティッシュロックを聞きながら、あの頃を思い出して、遅くまでフィーバーいたしました。次回幹事は、押山君と石田さんに引き継ぎました。
(川村享司・記)

編集委員・野口貞義(4期)、穴戸迪武(13期)、川田秀文(14期)、北久利(18期)、根岸之夫(21期)、石川恵子(35期)、未續理(61期)

同窓会 14,306名全員の「会員名簿」 残り95部



母校の閉校にともない、当会の会員は、逝去会員を含め14,306名に固定されました。そこで、平成17年(2005年)12月発行の第1期から55期までの会員名簿に、56期から最終卒業生61期の名簿を別冊として添えた、全会員の名簿が完成しました。残部はわずか95部となりました。この機会にぜひお求めください。

【内容】

平成17年版「同窓会名簿」：同窓会会則、恩師名簿、第1期～55期会員名簿、氏名・卒業期・クラス索引、クラブ・サークル別名簿、校歌・

学生歌・寮歌・記念祭歌(歌詞・楽譜付き) 30曲
B5判480ページ 別冊56期～61期名簿：B5判24ページ

頒布価格(送料とも) 2,500円

注文の方法：下の欄外をご覧ください。

「校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌集 DVD」



このDVDは母校の閉校記念協賛事業として、学校、府立高等学校同窓会等の協力と、会員のボランティアにより、一昨年5月、100名の会員により、母校の体育館メインアリーナで収録したもので、全曲映像に歌詞が付き、カラオケとして使用することが出来ます。

【内容】

全編再生：33分

残り97部

吹奏楽：校歌(嗚呼西山の)、学生歌(青春といふ)、文乙歌(いざ友)
斉唱：校歌(嗚呼西山の)、学生歌(嗚呼烈誠の)、学生歌(青春といふ)、文乙歌(いざ友)、第五寮歌(紫の霞)、第八寮歌(春残更に)、第一回記念祭歌(手をつなげ)、第二回記念祭歌(古きいらか)、第七回記念祭歌(吹きすさぶ)、第十七回記念祭歌(晩夏に集う)、乾杯の歌(Stein Song)

頒布価格(送料とも) 1,500円 * 全歌詞を掲載した小冊子付き

注文の方法：下の欄外をご覧ください。

「旧制高等学校生の青春彷徨」

—旧制府立(都立)高等学校の昭和時代—
吉松安弘(2期生)・著 彩流社・刊



私たち都立大学附属高校の前身である旧制府立高校は、昭和4年、近代日本を導く人材の育成を目指す、中高一貫の7年制高校として設立された。イギリスのイートン校を目標に、自由と自治を掲げたキャンパス、生徒がその想いを歌った数々の学生歌、苦難の戦争時代、信頼し合う教師と生徒。叙述は、府立高校の歴史を物語りつつ、旧制高校の在りかたと現代日本とを評してゆく、お勧めの、同窓生書き下ろしの新著。

目次抜粋：栄華の巷低く見て、八雲が丘キャンパス、校歌は行進曲か3拍子の頌歌か、殿られた校長先生、青春という青春という、人生も学問も正門から進め、八雲北寮の詩人たち、芋力でインターハイ優勝、青い山脈と白練帽、記念祭夜の墜落死。

定価[本体2,300円+税] 四六判・カバー付き上製本、294ページ

* 同窓会の会員が下記の方法で注文された場合、消費税が割引可、送料も無料になります。

注文の方法：上記の特典付き郵便振替用紙(赤刷り)をお送りしますので下記まで、FAX、郵便、メールでご請求ください。本は彩流社から発送。
〒158-0084 東京都世田谷区東玉川2-3-15 野口貞義(4期生)方
Fax.03-3720-6007 E-mail:s-noguchi@ja2.so-net.ne.jp

2011年度貸借対照表

(2012年9月30日現在)

科目・摘要	金額(単位:円)
I 資産の部	
流動資産	
現金及び預金	
ジャパンネット銀行	428,282
みずほ銀行	7,557,335
ゆうちょ銀行	2,809,070
小計	10,794,687
頒布図書在庫	
名簿(95部)	237,500
閉校記念誌(10部)	15,000
小計	252,500
資産合計	11,047,187
II 負債の部	
負債合計	0
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	7,282,738
当期正味財産増加額	3,764,449
負債及び正味財産合計	11,047,187

2011年度正味財産増減計算書

(2011年10月1日～2012年9月30日)

科目・摘要	金額(単位:円)
I 経常収益	
1、受取会費	
3年間会費	1,880,000
終身会費	3,390,000
小計	5,270,000
2、事業収益	
名簿売上	362,500
閉校記念誌売上	120,000
小計	482,500
3、利息収益	714
経常収益計	5,753,214
II 経常費用	
1、会報費	
会報印刷費	941,850
会報作成費	132,712
会報発送費	829,890
小計	1,904,452
2、経常管理費	
記念祭費	43,457
交通費	14,360
雑費	62,175
事務用品費	18,888
手数料	85,268
通信交通費	112,665
小計	336,813
経常費用計	2,241,265
III 経常外収益	
頒布図書在庫掬上	252,500
経常外収益計	252,500
当期正味財産増減額	3,764,449
前期繰越正味財産額	7,282,738
正味財産期末残高	11,047,187